

今号の内容

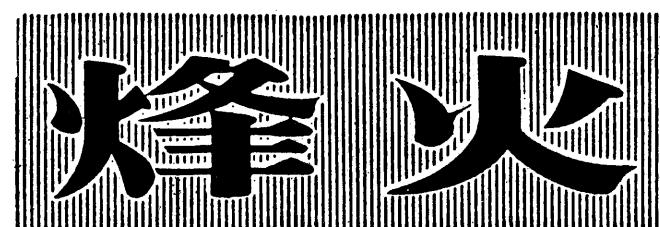
沖縄侵略反革命前線 基地強化に反撃せよ

P2~5

◆フィリピン連帯學習資料② P6~7

◆(書評) CPP 重要文献集 P8~9

1988年
5月1日
第394号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄西2-8-19

明豊ビル401号 大労協内

TEL.(06)371-3706

○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫

○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫



下▼米の侵略を想定した訓練を受けるパナマ人女性（4月6日）
上▼パナマ運河近くで軍事演習を開催する米軍部隊（4月5日）

米帝の中米支配の強化許すな

米帝のパナマへの直接介入策動が強まっている。レーガン政権は四月五日までに一三〇〇人の米兵をパナマに増派した。現在、さらに八〇〇人の海兵隊を派遣中である。パナマには陸、海、空、海兵隊四軍約一万を擁し中南米全体を監視する米軍の司令部がおかれしており、これで米軍の総兵力は一万三、四〇〇〇人となる。

パナマ情勢は急を告げている。周知のようにパナマでは二月二六日、政治の実権を握るノリエガ国軍総司令官が、米帝の意を受けてノリエガを追放しようとしたデルバイエ大統領を解任し、ソリス教育相を大統領代行に任命するという政変が起きた。米帝はただちにこれに反応し、在米パナマ資金の凍結、パナマ運河通行料の支払い停止、米軍の増派などを強行し、ノリエガ追放のための圧力をかけた。米帝の経済的軍事的圧迫のなかで国内は混乱し、特權層・中間層の利益を代表する「市民十字軍」のノリエガ退陣を要求するデモ、ゼネストが数波にわたりておこなわれた。しかしノリエガは、中米周辺諸国の中米による「内政干渉反対」「経済制裁反対」の態度表明にも助けられ、四月下旬現在まで権力を維持しつづけている。

米帝にとってパナマは、中南米支配のための戦略的要衝であり、また絶対に手離さないたくない経済的権益圏である。とくにパナマ運河の確保は米帝にとって決定的位置をもつていている。七七年に結ばれた新運河条約（カーター・トリホス条約）によつて、二〇世紀末の全面返還と、運河の管理を漸次パナマに移管することが決められ、その節目となる九〇年を目前に控えて米帝は、自分の思いのままになる政権の確立を急いでいた。当初、米帝は八三年に國軍司令官に就任したノリエガに接近して、親密な関係を形成することに成功した。ノリエガも米帝の期待にこたえて、米帝の謀略活動に積極的に協力するなどしてきた。しかし、ノリエガの麻薬取引問題をきっかけにして両者の関係は悪化し、本年二月四日には麻薬密輸容疑で米帝が連邦大陪審にノリエガを起訴するという事態に至った。反旗をひるがえしたノリエガ派を追放するために、米帝が軍事的手段に訴えてでも問題を解決しようとする可能性が高まっている。わが日帝にとってもパナマは中米最大の貿易国であり、また最大の投資先であり、パナマ情勢のゆくえは他人事ではない。日帝はいったんはノリエガ派を承認したが、米帝との共同歩調をとるようになるのは確実である。

米帝の中南米支配とたたかい革命運動を前進させる中南米人民と連帯し、米帝のパナマ軍事侵攻と日帝の協力・加担のたくらみを阻止しなければならない。

強まるパナマへの直接介入の策動

米に協力・加担する日帝

米軍の滑走路修復訓練。核事故などに備え
防護服を着用している(4月6日読谷村)



「復帰」から16年目を迎える沖縄

侵略反革命前線基地の 強化に反撃を組織せよ

侵略拠点として再編 される沖縄米軍基地

「復帰」前以上に、沖縄の基地が強化されることは、誰の目にも明らかである。

米軍基地の近代化と即戦化が強力に推進されている。四年前に再配備されたクリーンベレー や、最近新配備された改良型ホークミサイル部隊、空中指令塔や偵察機などを含む最新型戦闘機など、ベトナム戦時の機能や装備を近代化しての基地強化が「復帰」以降急速に進められ てきた。読谷村の「象のオリ」やFBI-S基地などの電波通信網の機能増強をともないながら、沖縄の米軍基地は、西太平洋から中東、北アフ リカまでの地域の有事に即応し、自由に出撃で きる侵略拠点として強化されている。また、N BC（核・生物・化学）兵器の貯蔵・管理・整 備・輸送を任務とする部隊も配備され、攻撃・ 防御訓練などの米軍演習が一段と激化している。

日帝は、日米共同軍事演習を積み重ね、また 自衛隊の対潜戦作戦センター建設など独自の動 きを強めながら沖縄の米軍基地強化に連携して きた。本年一月の日米軍事首脳会談で合意され た「有事の際の米軍部隊来援を円滑にするため の日米共同研究」（有事支援研究）は、このよ

うな動きをさらに加速させていくだろう。「有事支援研究」は、日本での有事立法制定を前提として明示し、日本の経済的分担の強化、民間動員体制の本格的準備を狙うものである。このような攻撃は沖縄では先取り実施されてきたが、労働者人民の生活をおしつぶしておこなわれて

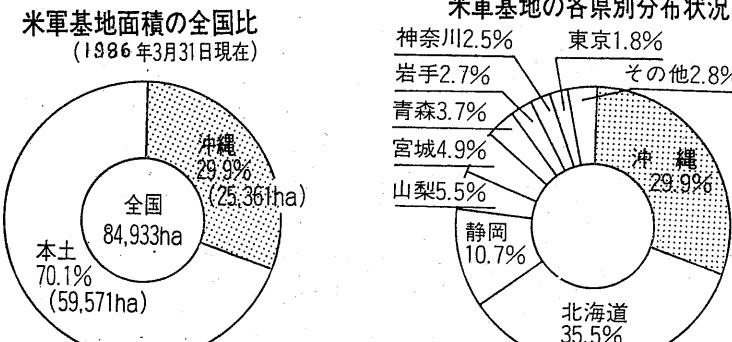
かわる階級的労働 統一戦線つくろう

きた軍事演習や軍用地強制使用、民間施設の使用などの攻撃が、法的裏づけをもつ「国民の義務」としてさうに激しく労働者人民に襲いかか るのは必至である。昨年の反戦地主に対する 「米軍用地10年強制使用」攻撃は、この前ぶ れにはほかならなかつた。住民の激しい抵抗によ つて工事の中斷に追いこまれている沖縄北部・ 国頭村でのAV-8Bハリアー垂直離着陸機の訓 練場建設など、前線基地としての強化に積極的に協力しながら、日帝は民間動員を軸にした沖 縄における「円滑な戦時体制づくり」を本格化 しようとしているのである。

このような情勢のなかで、日帝の沖縄支配は 大きな節目を迎えている。昨八七年沖縄国体への天皇訪沖攻撃は時代を画する攻撃であった。それは、沖縄戦や米軍政支配の体験をへて反戦 反基地闘争を根づかせてきた沖縄労働者人民の たたかいを解体し、排外主義のもとにねじふせ、 はなしえなかつた、沖縄労働者人民の戦争体制 への動員を実現する準備を積み重ねてきた。そ の攻撃は、沖縄労働者人民のたたかいの直接の 破壊であるとともに、かつての反戦反基地闘争 を生みだした沖縄階級闘争の構造そのものの変 質を狙つものであった。

沖縄階級闘争は戦後、復帰闘争という民族運動を通して発展してきた。それは過酷な米軍政

還」以来の沖縄階級闘争の大きな転機となるような攻撃がうちおろされた。「軍用地10年強制使用」攻撃や、沖縄国体での日の丸・君が代・天皇攻撃は、戦後の沖縄階級闘争がつちかってきた地平を根こそぎ破壊・変質させるものとして存在した。八八年は、日本帝国主義の攻撃の前に膝を屈するのか、それとも、日本帝国主義との正面戦を担うる沖縄階級闘争の新たな陣形を建設するのかの選択を、先進的労働者人民にいやおうなく迫っていく年となるだろう。それは、沖縄労働者人民のみへの問い合わせではない。國際帝国主義として飛躍しようとする日本帝国主義は、侵略反革命戦争遂行にむけた攻撃を、沖縄においてもっとも激しくくり広げており、これと正面からたたかう必要性は、日本労働者人民総体の根本的課題である。沖縄をはじめ全国の反戦反基地闘争を強化し、「日本帝国主義の侵略反革命戦争出動を阻止せよ!」の実践スローガンを担うるものへと発展させることは、先進的労働者人民の共通の課題である。



資料：本土における面積は、渉外関係主要都道府県知事連絡会議会の資料による。
沖縄県の面積は、1986年3月31日現在である。

日帝の取り引きによって「日本復帰」が実現し、復帰運動は幕を閉じる。復帰運動の指導部であった社共は、革新自治体（県政）闘争を開始していった。彼らは政治的には、「生命と暮らしを守る」ための反戦平和要求を掲げ、経済的には、沖縄特措法延長などの政策制度要求を掲げ、これらを実現するための革新県政の強化に諸階層人民を結集させていこうとした。

日帝は「復帰」以降ただちに、沖縄階級闘争を成立させてきた基盤を新たなものへとつくり変えようとした。かつては沖縄労働者人民の圧力によって米軍政に对抗すらした行政諸機構を「日帝のもとに完全に組みこんで再編・統合し、また、沖縄階級闘争の戦闘性を保障してきた労働運動をおさそこむために、全電通における再登録運動のよう、「本土」労働手代を使った「本土」帝国主義的労働運動への力づくの統合をおし進めた。経済的には、沖縄特措法などによる援助金をばらまいて沖縄労働者人民を慰撫しつつ、沖縄経済を公共投資や基地整備資金を依存したものにしてしまい、「本土」資本・政府に強く依存する経済構造をつくりだした。「中央政府との直結」を掲げる保守勢力が台頭失った。

支配に対するたたかいでもあった。この運動は、一方で米軍政支配からの脱却を展望して「日本復帰」の要求を掲げ、他方では政治的諸権利を獲得するための自治権の獲得を掲げた。六〇年代後半には、民族運動の枠を越えて、ベトナムをはじめとする反帝民族解放・社会主義勢力に連帶しようとする国際主義的な政治闘争の萌芽が、B52撤去闘争から一・四ゼネストの過程で生まれたが、それは沖縄階級闘争全体を規定するには至らなかった。そしてこの新たなかいの萌芽は、日帝と復帰協導部によってつみとられた。

日帝の取り引きによって「日本復帰」が実現し、復帰運動は幕を閉じる。復帰運動の指導部であつた社共は、革新自治体（県政）闘争を開始していった。彼らは政治的には、「生命と暮らしを守る」ための反戦平和要求を掲げ、経済的には、沖縄特措法延長などの政策制度要求を掲げ、これらを実現するための革新県政の強化に諸階層人民を結集させていこうとした。

日帝は「復帰」以降ただちに、沖縄階級闘争を成立させてきた基盤を新たなものへとつくり変えようとした。かつては沖縄労働者人民の圧力によって米軍政に对抗すらした行政諸機構を「日帝のもとに完全に組みこんで再編・統合し、また、沖縄階級闘争の戦闘性を保障してきた労働運動をおさそこむするために、全電通における再登録運動のよう、「本土」労働手代を使った「本土」帝国主義的労働運動への力づくの統合をおし進めた。経済的には、沖縄特措法などによる援助金をばらまいて沖縄労働者人民を慰撫しつつ、沖縄経済を公共投資や基地整備資金を依存したものにしてしまい、「本土」資本・政府に強く依存する経済構造をつくりだした。「中央政府との直結」を掲げる保守勢力が台頭失った。

米軍政による異民族支配に対し激しい抵抗を自然発生させた沖縄階級闘争の構造を一〇数年かけて再編した日帝は、いよいよ総仕上げともいうべき攻撃を開始した。すなわち、「県民感情の配慮」なる理由で手をつけてこなかった沖縄労働者人民の根強い反戦（反天皇）意識の解体であり、帝国主義の側からのとりこみである。昨年の沖縄國体を名目にした天皇一族の訪沖はこれを狙ったものであり、沖縄県知事西銘は、「天皇のお言葉により沖縄の戦後を終わらせていたら」「（沖縄戦は）今日の繁栄を守るために」との貴重な体験などと主張してこの期待に応えようとした。沖縄の労働者人民を侵略反革命戦へ動員しようとするかけ声が沖縄の内部からも公然と叫ばれる時代が、再び開始されようとしているのである。

革新の変質に抗した知花決起

国体ソフトボール大会の開始式における知花昌一氏の日の丸焼き捨ては、読谷村で反戦平和運動を中心的に担ってきた知花氏のやむにやまれぬ決起であり、沖縄労働者人民の自然発生的な憤激を代表するものであった。そしてそれは同時に、社共・既成労組指導部の屈伏と沈黙を厳しく批判するものでもあった。

開始された日帝の総攻撃に対して、社共や既成労組指導部は完全に屈伏し、またいわゆる「沖縄革新」も激しくふるいにかけられた。国体での日の丸掲揚をめぐっての読谷・革新村長の妥協は、革新村政の防衛のために日帝の攻撃への屈伏を選択するものとして存在した。読谷村の事態は「沖縄革新」の限界と深い動搖を示すとともに、いまや日帝の新たな攻撃のもので、もはや「革新」一般が決して労働者人民の利益を代表するものでないことをあらためて示した。

昨年の「米軍用地一〇年強制使用」攻撃や、沖縄國体における日の丸・君が代・天皇攻撃に象徴される日帝の沖縄支配の節目を画す総攻撃が開始されるなかで、沖縄先進的労働者人民はどうのような抵抗戦を築きあげたのか。

八七年に生起した一連の事態は、沖縄階級闘争の柱を構成していた社共と県労協がはつきりと変質し、もはやたかう労働組合・労働者人民にとって阻害物になつたことを大衆的に明らかにした。県労協は、日の丸・君が代・天皇攻撃に対するたたかいを国体民主化闘争に切り縮めたのみならず、事前に闘争うち切りを労働者人民に強要して、闘争の敵対者として登場した。

しかし、これに抗して先進的労働者人民は、社共や県労協と分岐した新たな政治闘争の流れをつくりだした。彼らは日帝の侵略反革命戦争への乗りだしに対し、沖縄戦体験をたたかいの原点として再確認し、再びの戦争への動員を拒否してたたかいぬくことを宣言した。彼らは沖縄階級闘争の伝統を发展させ、大衆的な広がりをもつた闘争を一〇月の皇太子訪沖時を中心にして組織した。一〇月二十四日の「天皇の戦争・戦後責任を告発するチビチリガマ集会」の実行委員会には、二二単組の先進的労働組合を中心して沖縄のたたかう諸戦線が総結集した。戦線建設の一歩を切り開いたのである。そしてこの新しいたたかいが前進するなかで、一〇月六日には知花氏の決起がかちとられたのである。

崩壊する県労協に 運動と大衆的政治

知花を処刑すると叫ぶ右翼が読谷村に集結して反革命集会を强行した(3月30日)



いづれ労働者の決起を抑圧するのみならず、労働者を侵略反革命戦争へと総動員する役割をそれは果たしていくであろう。

かつては沖縄の労働者・人民は皆ほぼ等しく同じような社会的位置にあり、労働運動は労働者・人民全体の利害を代表しえた。沖縄労働運動は、復帰闘争や日帝の沖縄「返還」政策に対してさまざま自然発生する人民闘争を領導していくなかでその戦闘性を育んできた。しかし、「復帰」以降、沖縄社会の階級分解は急速に進行してきており、今日ではそうした労働運動構造は失われている。既成労組指導部は労働者の上層部の利益代表者に転化しており、彼らの運動には戦闘的伝統の遺産の食いつぶしであり、本質的には上層労働者の現状維持を目的とするものとなっている。

労戦再編が確実に具体化していくなかで、これまで沖縄の先進的労働者の一部にも存在した

進的労働者は、「沖縄革新」の変質、そして次にのべるような沖縄における労働運動の帝国主義的再編の開始という局面を鮮明にし、次の時代の階級主体と階級闘争陣形を建設するたかないと結びつけて、この支援闘争に取り組まねばならない。

波及する帝国主義的労戦統一

昨年一月の全民労連発足を受けて、今日、沖縄にあっても労戦戦線の帝国主義的再編が急速におし進められている。二月一〇日に労戦統一のために県労協内に「労戦対策委員会」が設置され、三月三〇日には県労協加盟の六単産と同盟加盟六単産によって「連合沖縄準備会」が結成された。また四月六日には県労協労戦対策委において、八九年九月の定期大会での県労協の解散と統一ローカルセンター発足に至る道筋が確認された。

こうしていまや労戦統一の動きは沖縄でも避けられないものとなっており、県労協の崩壊が確実なものとなってきている。県労協指導部や労戦統一派は、沖縄においては同盟の勢力が弱いという「特殊性」をとらえて、この事態をあたかも同盟勢力の吸収であるかのように説明している。しかしこれが何の説得力をもたないことは、一方では反戦・反基地・反安保などの政治課題については統一ローカルセンターとは別枠に、新たに「県労協センター」を設立して取り組むという彼らの方針のなかにもあらわれている。つまり統一ローカルセンターでは政治課題は扱えないのであり、それは、同盟勢力の吸収などという性格のものなどではないことは明白である。あらためていうまでもないことであるが、それは八九年に発足する右派ナショナルセンターの地域組織として結成されるのである、沖縄だけは何かしら異なる性格をもつなどといふものでは決してないのである。したがって、

「沖縄には労働運動の戦闘的伝統があるから『本土』の労戦再編の動きはさほど波及しないだろう。総評や他県評が解体したとしても沖縄県労協は残る」という幻想の存在する余地は、いまや完全になくなっている。もはや既成労組指導部に対していささかであろうとも期待を寄せることはできない。先進的労働者は、県労協がかつて蓄積してきた企業・産別を越えた地域共闘と、全人民的政治闘争という経験を既成指導部に代わって継承し発展させ、県労協運動に代わる階級的労働運動の構築にむかうことを要求されている。

沖縄と「本土」貫ぬく 沖縄闘争の大前進を

昨年から引きつがれるたたかいを前進させるために、そして、そのなかで切り開かれた沖縄階級闘争の新たな萌芽を発展させることに、いま先進的労働者・人民の全力が注がれなければならない。

新しい階級闘争構造つくろう

八七年の国体闘争が暴きだしたように、社共・県労協を中心とした沖縄階級闘争構造はいままさに崩壊せんとしている。それは戦後の沖縄階級闘争の戦闘的遺産が、最後の息の根を止められつつあることを物語っている。社共・県労協指導部と明確に分岐し、日帝との正面戦を担う大衆的プロレタリア政治統一戦線と、階級的労働運動を基礎にした新たな階級闘争の陣形建設が大胆に開始されねばならない。

沖縄では、第三次産業を中心とした零細企業労働者が圧倒的多数であるために労働者の組織率が低い反面、米軍政支配下での巨大な民族運動を人々が経験してきたこともあって、階級闘争の基盤は「本土」に比べてきわめて広く深いという特徴をもっている。この特徴は、昨年六月二一日のカデナ基地包囲行動にもみられたように、現在も基本的には保持されている。しかし、労働者・人民の自然発生性を日帝への正面戦へと統合し、成長させていく階級的指導部はい

沖縄における抵抗戦、その中軸である反戦反基地闘争を、眞に日帝と対決しうるものへと成長させるためには、国際連帯闘争を飛躍的に強化することが必要である。六九年の二・四ゼネストを日米帝が全力をあげてたたきつぶしたのは、基地機能が麻痺することを彼らが恐れたからだけではない。彼らは、沖縄労働者・人民がベトナムをはじめとする反帝民族解放・社会主義のたたかいとの国際連帯をめざし始めたことを心底恐怖したのである。

今日、国際帝国主義に飛躍しようとする日帝にとって、新植民地主義支配を維持し防衛する



沖縄の先進的労働者人民が総結集した昨年の皇太子来沖反対闘争

ことは死活の課題である。日帝は新植民地主義支配下の諸国で不可避にわき起る反帝民族解放・社会主義のたたかいを鎮圧し、自己の権益を防衛する侵略反革命戦争準備を怠いでいる。沖縄の軍事基地はアジアのたたかう労働者人民を威嚇し、虐殺するため日々稼働している。新植民地主義支配下の日本企業や資産の防衛を名目にして日帝が、米帝とともに反革命介入のための軍事行動を直接におこなうようになるのもはや時間の問題である。日帝以下の労働者は、全世界の反帝民族解放・社会主義のたたかいとの実際的結合をつくりだし、日帝の侵略反革命戦争出動を阻止するたたかいをつくりだしていかなければならぬ。沖縄においては、この問題はとくに重要な問題であり、沖縄階級闘争の飛躍をかけて全力で切り開かなければならぬ課題である。

まだ沖縄には存在していない。社共の革新自治体路線は反戦反基地闘争が日帝への正面戦へとむかうことをおしとどめ、基地関係交付金などによる日帝の懷柔政策に人民を屈伏させる役割を果たしてきた。これと訣別し、沖縄労働者人民のわき起ころ反戦反基地闘争を、大衆的プロレタリア政治統一戦線へと統合する持続的なたたかいが生みだされなければならない。

この大衆的プロレタリア政治統一戦線建設のたたかいと結合し、今日に至るまで年功序列賃金や終身雇用制から除外され、明日をも知れない失業の恐怖と低賃金・無権利状態に放置された沖縄の圧倒的多数の未組織労働者を労働組合に組織するたたかいをつくりだしていくなければならない。労働者大衆の階級的利益を守

たたかいと結合し、今日に至るまで年功序列賃金や終身雇用制から除外され、明日をも知れない失業の恐怖と低賃金・無権利状態に放置され

たたかいと結合し、沖縄労働者人民の日々のたたかいである日帝の侵略反革命前線基地との闘争を、全国の労働者人民のなかに

たたかいを開始しなければならない。

り、彼らの階級形成を進めるうえでこれはきわめて重要な任務である。

昨年の先進的労組・活動家によって切り開かれた地平は、以上二つの課題に正面から取り組むことによってしか発展させることはできない。

昨秋闘争をたたかった先進的労働者人民は、新たな階級闘争の陣形建設の主体として登場すべくたたかいを開始しなければならない。

反撃の五・一五をかちとろう

国家秘密法や大型間接税などの戦争準備の反動攻勢とのたたかいと結合し、沖縄労働者人民の日々のたたかいである日帝の侵略反革命前

たとどまるところを知らない日帝の総攻撃とたたかい、沖縄においても進む帝国主義的労戦再編

攻撃と対決し、五・九、五・三〇、六・二二知花氏公判闘争、六・二三沖縄戦終結四八周年闘争をたたかいぬき、沖縄闘争の爆発、沖縄階級闘争の前進を切り開こう！

根づかせていかなければならない。日帝足下に

おいて、日帝の侵略反革命戦争出動とのたたかいの緊要性を訴え、労働者人民を政治的に教育していくために、沖縄労働者人民と「本土」労働者人民との固く結合した沖縄闘争の取り組みが必要である。

一六年目の五・一五は、反撃戦の準備へと先進的労働者がとりかかることを公然と呼びかけるものにならねばならない。右翼を突撃隊にし

たたかいと結合し、今日に至るまで年功序列賃金や終身雇用制から除外され、明日をも知れない失業の恐怖と低賃金・無権利状態に放置され

たたかいと結合し、沖縄労働者人民の日々のたたかいである日帝の侵略反革命前線基地との闘争を、全国の労働者人民のなかに

たたかいを開始しなければならない。

り、彼らの階級形成を進めるうえでこれはきわめて重要な任務である。

昨年の先進的労組・活動家によって切り開かれた地平は、以上二つの課題に正面から取り組むことによってしか発展させることはできない。

昨秋闘争をたたかった先進的労働者人民は、新たな階級闘争の陣形建設の主体として登場すべくたたかいを開始しなければならない。

現地集会に一千百が結集

三里塚

3・27

開港阻止決戦から十年

七八年の開港阻止決戦から一〇年をへた三月二七日、三里塚で現地総決起集会がかちとられた。この日、反対同盟の百名近くの労働者・学生・市民の結集により、午後一時に集会が始まった

下山政江さん、石井純子さんの司会でおこなわれた集会では、反対同盟代表の熱田一氏が「徹底抗戦あるのみ。たたかいは人間なくしてはできない。勝利はたたかいなくしてはできない」と固い決意を表明した。つづく基調報告では、ベトナム戦争時に米軍のために羽田が満ぱいになって、安保体制下の軍事空港として成田に空港が建設されることになった経過が説明され、さらに、農産物輸入自由化や減反など農業破壊と対決しなければ生きてゆけなくなっていると提起された。

用地内を代表して木の根の小川篤子さんがいいさつし、さらに芝山町議の石毛博道さん、東峰の石井紀子さん、辺田の龍崎泰子さん、横堀の下山久信さんのアピールがおこなわれた。そして、顧問弁護団の清井弁護士の発言、泉州沖に空港をつくらせない住民連絡会の連帯あいさつ、

公団が暴挙

3・30

長崎造船労組からのメッセージ、七人の管制塔戦士の発言、婦人行動隊決起集会がかちとられた。この日、瓜生すみ子さんのカンパアピールが反対同盟の百名近くの労働者・学生・市民の結集により、午後一時に集会は始まった

下山政江さん、石井純子さんの司会でおこなわれた集会では、反対同

盟代表の熱田一氏が「徹底抗戦ある

のみ。たたかいは人間なくしては

できない。勝利はたたかいなくして

できない」と固い決意を表明し

た。つづく基調報告では、ベトナム

戦争時に米軍のために羽田が満ぱいになつた経過が説明され、さらに、農産物輸入自由化や減反など農業破壊が進んでおり、農民は資本主義体制と対決しなければ生きてゆけなくなっていると提起された。

この日確認されたスローガンは、

①一期阻止！②用地内農民の追い出し

攻撃粉碎！③農産物自由化反対！輸

入拠点成田空港を許すな！④戦争に

つながるブルトニュウムの空輸反

対！の三本で、横堀のやぐらに高々

と掲げられた。

集会に先立ち、約三五〇人が、権力の妨害をはねのけて現地見学をおこない、また横堀墓地では、長年反戦闘争に関わってきて今年一月に亡くなった永瀬清志さん（七二才）の遺骨が家族、友人、反対同盟の手で次々とおこなわれた。また、義姉の葬儀からかけつけた木の根の小川源さんが喪服姿で登壇し、「一致団結して政府・公団をふつとばそう」と呼びかけた。

この日確認されたスローガンは、

①一期阻止！②用地内農民の追い出し

攻撃粉碎！③農産物自由化反対！輸入拠点成田空港を許すな！④戦争につながるブルトニュウムの空輸反対！の三本で、横堀のやぐらに高々と掲げられた。

三月三〇日、東峰における公団用地の囲いこみが強行され、染谷かつさん家の家屋が公団により破壊、炎上させられるという暴挙がおこなわれた。

今年八七才になつた染谷かつさんは、いまも東峰の地で農業をつづけ、生活しつづけている。今回の暴挙は、かつさんが病氣で療養しているすぎをねらつたものであり、許しがたいものである。さらに公団は、以前から執拗に家族に対し、家屋破壊に同意するように恫喝を加えていたのである。

公団はかつさんの息子が家屋を売つたとしているが、かつさんは東峰の地に生活しつづけているのであり、公団のおこなつた買収も、機動隊の暴力を背景にした強権的なものにはならないのだ。

全国の労働者、学生、市民のみなさん！日帝・公団の軍事空港建設にむけた二期用地内農民追いだし、拠点破壊の攻撃を許さず、さらに現地闘争体制を強化しよう。



横堀のやぐらには三本の集会スローガンが掲げられた



争史(中)



この革命は、カティ・ブーナンと
いう名の秘密結社によつて率いられ
た革命であった。この組織の指導部
は、主として二つの部分から成り立
つていた。一つは、ホセ・リサール
の流れをくみ民衆の苦しみを告発し
独立のためにたたかおうとした知識
人たちであり、もう一つは、反スペ
イン闘争を利用して経済的・身分的
な地位向上をねらつた中産階級出身
者たちであった。のちに述べるよう
にこの組織は分裂するのであるが、
それは自らを貧農・労働者の立場に
立たせようとした一部の良心的知識
人指導部が、ブルジョアジーになり
あがろうとした他の人々に放逐され
たことを意味する。前者を代表した
のが、党的創立者であり貧しいイン
テリゲンチャであったアンドレス・
ボニファシオ、後者を代表したのが
スペインにかわる宗主国アメリカと
の取引をもつて革命の収拾役を演じ
たエミリオ・アギナルドであった。
しかし、この革命は決して中産階
級の革命ではなかつた。カティ・ブ
ーナンの旗のもとに何万、何十万と

●カティ・ブーナンの闘い

直接にはスペイン植民地支配の改良を要求するインテリゲンチャの改革運動（ホセ・リサール等のプロパガンダ運動）に端を発し、その内部からより徹底して「独立」を旗印に進もうとした部分を先頭として、「スペイン植民地主義と修道会專制主義」からの解放を掲げ、「人間の尊厳を守れ」という思想を掲げてたたかわれた。

それは、それ自身としてはスペイン植民地支配の枠のなかでは出世しかねないはず金儲けのチャンスもつかめなかつた新興の商業資本家や地主など将来の支配階級の政治要求であつた。しかし、このスローガンの背後には、スペイン植民地支配下での重

●一八九八年の革命闘争

前号においてスペインの植民地支配下でのフィリピン人民のたたかいを中心に、フィリピン社会の発展を跡づけてきた。今号においては、一八九八年のフィリピン革命と新たな支配者として米帝が登場する過程を考える。

の解放、すなわち独立という政治要求が、はつきりと存在していた。

和見をしていたのだった。

- ◎一八九二年・秘密結社「カティ・ブーナン」結成する。
- ◎一八九四年・独立を旗印に多数の農民・労働者がカティ・ブーナンに加入。

者たちは、小規模なほんばらの労働から大都市で生まれ始めた大工場生産（たとえば、スペインによるタバコ専売会社）によって、ひとところに集められ、自分の苦しみが他の労働者の苦しみであることを共通の経験によって学びつつあつた。彼らもたたかいで参加した。

◎一八九七年：カティ・ブーナーは、当局の組織の存在を察知。数百人「関係者」が投獄される。カティ・ブーナーは革命の決行を決め武装決争を開始。各地で呼応して武装決争がおこる。（九月）当局はカティ・ブーナーの関係者を多数処刑する。

行い、これ以降、武装闘争を続ける者を反逆者とみなすと主張。革命継続を主張したボニファシオを処刑。アギナルド派は、自らの国外亡命をもつての革命の鎮圧と引き換えに、スペイン当局から八〇万ペソの支払を約束させる。

◎一八九八年：この間、指導部の分裂とは無関係に各地でスペイン軍との武装衝突が継続してたたかわれる。アメリカ合衆国の介入はじまる。

(五月) アギナルド帰国。 (六月)

● アメリカの反革命介入

立たせようとした一部の良心的知識人指導部が、ブルジョアジーになりあがらうとした他の人々に放逐されたことを意味する。前者を代表したのが、党的創立者であり貧しいインテリゲンチャであったアンドレス・ボニファシオ、後者を代表したのがスペインにかわる宗主国アメリカとの取引をもって革命の收拾役を演じたエミリオ・アギナルドであった。

しかし、この革命は決して中産階級の革命ではなかった。カティ・ブーナンの旗のもとに何万、何十万と

た「スペインからの独立宣言」を発する。アメリカとスペインの取引成立。(八月)米西戦争が勃発。その後半にスペイン撤収のための模擬戦争が仕組まれて米軍が勝利。(十二月)パリ講和条約(フィリピンのアメリカへの引き渡しなど)。マッキンレー米大統領「恵み深き同化」宣言。米比戦争=侵略反革命戦争をしけ、米軍の正式投入。この時点でスペイン軍には勝利しつつあったが、フィリピン軍の掃討はじまる。

行い、これ以降、武装闘争を続ける者を反逆者とみなすと主張。革命継続を主張したボニファシオを処刑。アギナルド派は、自らの国外亡命をもつての革命の鎮圧と引き換えに、スペイン当局から八〇万ペソの支払を約束させる。

はスペイン植民地支配からの独立を掲げた革命であったにもかかわらず、それは結局アメリカ合衆国の植民地になることに帰結した。このことを理解するためには、その背景に少しあちこちでふれておかねばならない。

一六〇〇年代初頭から、二三万人におよぶ中国人がフィリピンに入り、商売を興しはじめ、一六〇〇年代半ばには主に貿易の主導権はイギリスに握られた。これらの活動が本格化する一八〇〇年前後には、「スペイン国旗をかかげた英・中植民地」と

◎一九〇一年：（三月）アギナルド、米軍に捕らえられる。（四月）アギナルド、アメリカに忠誠を誓う布告を出す。

◎一九〇二年：アメリカ合衆国議会、フィリピン法を制定。フィリピンはアメリカの正式な植民地となる。以後、一九一年に最終的に鎮圧されるまで各地で反乱が断続する。

●アメリカの反革命介入

前号においてスペインの植民地支配下でのフィリピン人民のたた

いう被抑圧人民が武器をとり、命を投げ出してたたかつた。このような

共和国樹立（マロロス共和国ともい
わん、アギナレドが大統領となる）。

「 いう被抑圧人民が武器をとり、命を投げ出してたたかつた。このような人々の願いと力によつてこそ、カティイ・ブーナンは革命の主体たりえた

共和国樹立（マロロス共和国ともいわれ、アギナルドが大統領となる）。米軍との戦闘においてフィリピン軍の形勢不利。（十月）米軍大攻勢。

フィリピン革命への連帯に フィリピン階級闘

にもかかわらず各地でスペイン軍を押しまくり、勝利の一歩手前まで前進していた。フィリピン革命のなかでフィリップブルジョアジーが自己のあらたな「スポンサー」としてアメリカとのたびかさなる交渉をもたらすのも、決して彼ら自身の力量によるものではなく、その背後に武力だけでは鎮圧しきれない革命的たたかいが存在していることを、フィリピンをとりまく列強および米国が見てとったがゆえであった。アメリカは、スペインが革命鎮圧のために背負った債務をかわって支払い、スペインではもはや不可能となつた革命の炎を消す役割をひきうけることによって初めて、イギリスなどの賛同をとりつけ、支配権の「平和的進行」を可能にしたのであった。

●一八九八年革命の教訓

スペインからアメリカへ二千万ドルでフィリピン革命は売りわたされた。このようにして挫折したこの革命は、しかしフィリピンの解放闘争にとって消すことのできない経験を刻みこんだ。すなわち、革命の全過程をつうじたフィリピン支配階級の態度と、全国の無名の農民・労働者・市民のあくなき抵抗との間にあきわだつた対比が、この革命における両者の役割の違いをみごとに物語っているということである。

それは、けつして相いれない階級対立に根ざるものである。実際の革命の全過程において、前者は旧い支配階級にかわる存在に自己をおしあげるのみに腐心し、そのためにはただ植民地支配からの解放という未來の希望のためにだけ死んでいったのである。

フィリピン革命は、この国がもつているアジアのかなめ石としての位置に注目する諸資本主義国の包囲のなかでたたかわれた。にもかかわらず、それら資本主義どうしの本格的戦争にいたらずに、アメリカへのフィリピン売り渡しという「平和の方法」で支配権の交代があこなわれたのはなぜだったのだろうか。それは、フィリピン革命の激しいエネルギーが決して無視できないものとして列強のまえにたちはだかっていたからである。当時、革命軍は乏しい軍備

であつた。さうば祖国よ。共和国に榮光あれ。未来に独立のあらん」とを。」

●革命の教訓を発展へ

未完のまま挫折したフィリピン革命の全経験は、今なんのために再び光をあてられるべきなのか。それは、フィリピン共産党(CPP)が「われわれの革命は、一八九八年革命の継承・発展でもある」というように現在の反帝民族解放・社会主義革命としてのフィリピン革命を、一貫したフィリピン階級闘争の発展のなかでとらえるためである。

米帝の支配権確立ののちも、一〇年にわたつてつづいた各地の反乱は、多くの場合神秘的装いをまとつた宗教的指導者に率いられていたが、彼らのスローガンの多くは「土地を人民」というような、当時の貧農にとつぱく当たり前の要求であった。

このようなスローガンを支持してたかつた多くの農民・労働者の希望していたものは、いつの日いか、この要求が一貫した指導階級たるプロレタリアートの手によって掲げられるべきであるということに他ならなかつた。そして今こそそれがもとめられてゐるのである。當時、革命のがわの主体はまだ成熟していなかつた。すべての被抑圧階級の指導部たるプロレタリアートはようやく生まれたばかりであった。階級としての覚醒は一九一〇年ころにならなければはじまら

（つづく）

●フィリピン革命への連帯に向けて

四 次

●フィリピン階級闘争史

(上) フィリピン社会の発展と

スペイン植民地支配下のたたかい (三九三号)

(中) 一八九八年革命の挫折と米帝の登場(三九四号)

(下) 米帝の支配と日帝の占領、共産党(CPP)再建

●米日帝の新植民地支配

米帝・日帝のフィリピン新植民地主義支配とアキノ政権

フィリピン労働者・農漁民など諸階級層の現状とたたかい

●革命闘争に連帯しよう!

フィリピン共産党のたたかいと連帯の任務

ず、その党的誕生にはさむだ一〇年を待たねばならなかつた。そして導きの糸たるマルクス主義はまだまったくフィリピンには入ってきていないかった。小ブルジョア指導部が崩壊し、この革命のなかでゆれうごいた帝國主義とフィリピン支配階級と被抑圧人民のおのの異なる利害は、公然たる階級闘争にときはなたれることのないままに、新たな植民地支配の枠にいつたんは吸収されるべくなかつたのである。

さて、このようなフィリピン階級闘争の当時の状況は、革命をめぐる想をその内部に温存していった。攻防の激しさとは別に、ひとつ幻想をその内部に温存していった。「民主主義の旗手」というアメリカへの期待がそれである。この幻想は、アメリカ自身の強力な宣伝の結果であつたが、その後の第二次大戦下の反日闘争や戦後の新植民地支配のなかでも、たくみに再生産されて生き残していくことことができたのは、すでにフィリピン国内にアメリカと結びついで金儲けする階級が形成されていたからである。

フィリピン階級闘争がこのようないきなりアキノ政権樹立の過程をと掲げられるには、一昨年のマルコ幻想ときっぱりとたもとをわかち、ス追放からアキノ政権樹立の過程をと掲げられるには、一昨年のマルコ幻想ときっぱりとたもとをわかち、日・米帝国主義との闘争がしつかり熟していなかつた。すべての被抑壓階級の指導部たるプロレタリアートはようやく生まれたばかりであった。階級としての覚醒は一九一〇年ころにならなければはじまる。

（つづく）

書評

のもとに「民族民主戦線を組織する」と、主に農民に依拠して人民軍を建設し、武装闘争をとおして権力を奪取すること、などである。

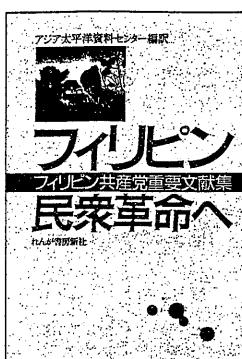
「われらが人民戦争の特質」

(CPP) の基本的な路線文書を入手することは、CPP が非合法下にあるためにこれまで決して簡単なことではなかった。そして、一九八六年の「二月政変」以降、フィリピンへの関心が高まるとともに、フィリピンの大衆運動については紹介される機会も増えていったが、CPP のたたかいについては、充分紹介されてきたわけではなかった。

しかし、この本に収録された諸文書をとおして、多くの労働者・学生活動家諸君は、CPP こそがフィリピン革命の唯一の前衛党であり、CPP に指導された新人民軍 (NPA) の武装闘争がこれまでのフィリピン革命の前進を切り開いてきた原動力であることを、はつきりと知ることができるであろう。そして、都市における労働運動や学生運動、農村における農民運動など多くの大衆運動が、CPP の指導によって革命への希望と深く結びついて発展していくことを知ることができるであろう。

内容の紹介

この本に収録されている文書は、次のものである。簡単に、内容を紹介しておきたい。



「誤りを正し党を再建せよ」

これは、一九六八年一一月のCPP 結成大会で決議された文書であり、CPP の今日にいたる出発点をかたちづくつたものである。一九三〇年に創立された旧共産党 (PKP) は、「抗日人民軍」(フクバラハップ) による英雄的な武装闘争を組織したが、多くの路線的誤りをもち、その後期においては指導部の深刻な腐敗すら生みだしていった。CPP は、このPKP 内の激しい党内闘争を通して結成されたのである。

CPP は、結成にあたって、「わが党は、こんど毛沢東思想の理論と実践をマルクス・レーニン主義を最高に発展させたものとして依拠することとする」(「重要文献集」P 5) と宣言した。そして本文書において、毛沢東思想に立脚しつつ、PKP への批判と、CPP のイデオロギー的・綱領的立場を提起している。すなわち、当面するフィリピン革命の性格は人民民主主義革命であること、党活動の力点を都市ではなく農村に置き、農村が都市を包囲する

フィリピン民衆革命へ

フィリピン共産党重要文献集

アジア太平洋
資料センター 編訳

れんが書房新社
2900円



新人民軍(NPA)の女性兵士

こと、人民民主主義革命にあたっての労働者階級の主要な同盟者は貧農と農業労働者であり、CPP の指導

いることを知ることができる。

「われわれの緊急任務」

一九七六年に公表されたこの文書は、七二年に戒厳令を発動したマルコス独裁政権に対する人民の憤激が強まるなかで、マルコス独裁政権に人の戦士たちによって中部ルソンで結成された。一九七四年に公表されたこの文書は、以降の武装闘争の経験の総括をとおして、フィリピン革命の軍事戦略を「持久的人民戦争」として提起している。

この軍事戦略を提起するにあたって、この文書ではフィリピン革命の性格を、「プロレタリア社会主義革命の一部を構成」し、「民族民主主義段階および社会主義段階」という二つの区別された段階からなる、ひとつ明に打ちだすにいたっている。

そして、フィリピンが山岳に富む小さな群島であり、人口の八五パーセントが農村に住んでいること、敵権力は都市では強大だが農村地帯では薄く広く展開せざるをえず、情報網も未発達であること、これらの革命の軍事戦略が立脚する諸条件を分析したうえで、農村・山岳地帯を戦場とした人民戦争を提起している。そして、フィリピンが群島国家であり、他の社会主義国から海によって隔てられているがゆえに他国からの援助を得ることが困難であり、この人民戦争は、ベトナムなどインンドニア諸国の解放闘争にくらべてすら、長期にわたる持久戦になることを提起している。

われわれは、この文書をとおして、CPP の軍事戦略が決して中国革命やベトナム革命の機械的模倣ではなく、フィリピン革命の条件に関する科学的な分析に立脚して提起されて起している。

われわれは、この文書をとおして、 CPP の軍事戦略が決して中国革命やベトナム革命の機械的模倣ではなく、フィリピン革命の条件に関する科学的な分析に立脚して提起されて

「フィリピンにおける生産様式について」

この文書は、一九八三年に、CPP の初代議長であるホセ・マリア・

は、七二年に戒厳令を発動したマルコス独裁政権に対する人民の憤激が強まるなかで、マルコス独裁政権に「人民の最も広範で力強い攻撃を集めさせねばならない」とともに、「この運動を慎重にかつ明確に反封建・反帝国主義運動と結びつけなければならぬ」(P1332) ことを提起している。

また、この文書では、農村における革命的大衆運動の組織化と基礎大衆組織の建設、地域的な権力機関としてのバリオ革命委員会の建設が提起され、それを指導する農村における強固な党支部の建設が提起されている。これらは七〇年代後半には、CPP がNPA の武装闘争を発展させつつ、そのなかから新たな革命権力の芽を各地に創出する段階に入り始めたことをうかがわせるものである。

CPP がNPA の武装闘争を発展させつつ、そのなかから新たな革命権力の芽を各地に創出する段階に入り始めたことをうかがわせるものである。 CPP がNPA の武装闘争を発展させつつ、そのなかから新たな革命権力の芽を各地に創出する段階に入り始めたことをうかがわせるものである。

さらに、この文書では、初めて都市における革命的大衆運動の組織化と労働組合への工作、そして工場や地域における党支部の建設が提起されるに至っている。それは、都市における労働者大衆の組織化に CPP が着手し始めたことを示すものである。しかし、その内容の多くは、いまだ農村における闘争経験の援用であり、都市における革命闘争のもう一つの重要な課題である、農村における革命闘争は、 CPP が着手し始めたことを示すものである。しかし、その内容の多くは、いまだ農村における闘争経験の援用であり、都市における革命闘争のもう一つの重要な課題である、農村における革命闘争は、 CPP が着手し始めたことを示すものである。

さらに、この文書では、初めて都市における革命的大衆運動の組織化と労働組合への工作、そして工場や地域における党支部の建設が提起されるに至っている。それは、都市における労働者大衆の組織化に CPP が着手し始めたことを示すものである。しかし、その内容の多くは、いまだ農村における闘争経験の援用であり、都市における革命闘争のもう一つの重要な課題である、農村における革命闘争は、 CPP が着手し始めたことを示すものである。

シソンの妻ジュリエッタが、獄中にとらえられていたシソンへのインタビューをまとめたものである。これは、CPPの公式文書ではなくシンの個人見解ではあるが、フィリピン社会を「半封建・半植民地」と規定するCPPの見解を詳しく知ることができる。

本書は、最後にアキノ政権成立以降の、CPPの次の三文書を収録している。

『ボイコット方針は間違っていた一党は総括する』『新人民軍結成一八周年に寄せるフィリピン共産党の声明』『フィリピン共産党の国際関係について』

これらの文書は、アキノ政権の成立という新たな事態のもとで、CPPが直面する問題の一端をうかがわせるものである。以前の文書とは違ない、これらは現在のCPP党内論争と深く関わる問題をはらんでおり、書評という形でふれるにはふさわしくない。ぜひ、直接文書を読まれたい。

シソンの妻ジュリエッタが、獄中にとらえられていたシソンへのインタビューをまとめたものである。これは、CPPの公式文書ではなくシンの個人見解ではあるが、フィリピン社会を「半封建・半植民地」と規定するCPPの見解を詳しく知ることができる。

本書は、最後にアキノ政権成立以降の、CPPの次の三文書を収録している。

『ボイコット方針は間違っていた一党は総括する』『新人民軍結成一八周年に寄せるフィリピン共産党の声明』『フィリピン共産党の国際関係について』

これらの文書は、アキノ政権の成立という新たな事態のもとで、CPPが直面する問題の一端をうかがわせるものである。以前の文書とは違ない、これらは現在のCPP党内論争と深く関わる問題をはらんでおり、書評という形でふれるにはふさわしくない。ぜひ、直接文書を読まれたい。



マニラのスラムの子どもたち

（P-78「われらが人民戦争の特質」）
このようなフィリピン革命が、いま大きな飛躍の課題に逢着していることを、われわれは本書をおとして知ることができる。一九八六年の大都市における膨大な人民の決起に対し、CPPはなんら対応することができず、またその用意を持たない

ことが、われわれは本書をおとして知ることができる。一九八六年の大都市における膨大な人民の決起に対し、CPPはなんら対応することができず、またその用意を持たない

ことが、われわれは本書をおとして知ることができる。一九八六年の大都市における膨大な人民の決起に対し、CPPはなんら対応することができず、またその用意を持たない

ことが、われわれは本書をおとして知ることができる。一九八六年の大都市における膨大な人民の決起に対し、CPPはなんら対応することができず、またその用意を持たない

ことが、われわれは本書をおとして知ることができる。一九八六年の大都市における膨大な人民の決起に対し、CPPはなんら対応することができず、またその用意を持たない

革命を指導するCPPの基本路線知るための好著

「ある意味で、われわれの民族民主革命は一八九六年に開始されたフィリピン革命の継続である。しかし、今回の革命は新しい特質を持つに至った。これは、新しい型の革命である。それは、もはやかつてのブルジョア資本主義革命の一部ではない。

この革命は第一次世界帝国主義戦争と偉大な十月社会主義革命の勝利の中から生まれたプロレタリア社会主義革命の一部を構成する。われわれは、未だに民族民主革命の途上にあるが、この革命はわが国における社会主義革命のための準備として位置づけられる。

われわれは、したがって、民族民主主義階級および社会主義階級といふ二つの区別される階級からなる、ひとつのフィリピン連続革命を遂行しているのである。これらの二段階のいすれにおいても、革命の階級的指導力はプロレタリアートの手中にある。…その前衛的分遣隊であるフィリピン共産党を通じてプロレタリアートは民族民主革命が遂行され、

完成されるよう、社会主義革命の遂行が民族民主革命の勝利にただちに続くよう、そしてひとつの歴史段階の全期間を通じて社会主義が共産主義の基礎を創りだすよう保証す

烽火

たたかいの鮮明な指針を提起する政治新聞

取り扱い書店

月刊

一部 200円
(通常号)

- 北海道／ひらひら(札幌市北区) ●東京／明治大学生協(東京都千代田区)、模索舎(同・新宿区)、吉祥寺ウニタ(同・武蔵野市)
- 神奈川／ルビコン書房(川崎市中原区) ●富山／藤井書店(富山市) ●愛知／名古屋ウニタ(名古屋市千種区) ●京都／オデッサ書房(京都市左京区) ●大阪／大阪ウニタ(大阪市天王寺区)、大阪市立大学生協(同・住吉区)、三鈴書林(同・北区)、関西大学生協(大阪府吹田市) ●兵庫／神戸大学生協(神戸市灘区) ●福岡／九州大学生協(福岡市中央区)

烽火の定期購読をお願いします

○郵送(密封)10回分……3000円

20回分……5000円

(お申し込みは大阪戦旗社まで)

「連合春闘」と対決し闘う労働組合が決起

十月会議を強化し階級的労働運動の全国結集を!

4・5 東京
首都圏労働者集会三千五百人が参加
 「八八春闘勝利! 右翼的労戦再編反対! 四・五首都圏労働者総決起集会」が、日比谷野音に三五〇〇名の労働者を結集してかちとられた。

まず司会あいさつに立った東水労の代表から、「八八春闘勝利・戦争策動反対を軸に、たたかう労働組合の大結集を」という発言がなされた。また主催者を代表した都労連、そして八八春闘懇談会を代表して発言に立った国労、さらには市川元総評議長などからいすれも、「八八春闘を突破口にして『連合』と対決し、たかう左派の大結集を」という趣旨の発言がおこなわれた。

集会は東京における「反『連合』

・非統一労組懇の左派労組の大結集となつた。これはいわゆる「『連合』に行かない行けない」労働組合を中心としたものであり、その意味では「連合」を生みだした総評の組

合主義・本工主義に対する批判と総括を共闘のベースとしたものではない。大きくは総評を継承し、その解散に反対することを共通の立場としている。それを通じて、首都在闘する共闘であった。だが「連合春闘」といわれる情勢のなかで、これとの対決を春闘攻防を軸にして大衆的に

われわれはこのような十月会議の主張で、独自的な行動の強化を断固支持し、これをより発展させていかねばならない。それを通じて、首都における大衆的政治統一戦線の基礎を確固たるものとして建設していくことである。



南部地方統一行動の独自集会

反基地反弾圧で京労実が集会

4-20

四月二十日、京都労働者実行委主催で「反基地反弾圧・映画講演集会」が、京都部落解放センターで開催された。会場は、総評全日建連労組関西生コン支部、自立労連タカラブネ労組、京都市役所労働者連絡会議の労働者を中心に、一五〇名の労働者を結集で埋めつくされた。

第一部として、「怒りの三宅島」が上映されたあと、第二部として谷岡洋氏（全日建連労組）から「拘

禁二法」を中心とした政府の進める弾圧立法が、階級闘争の弾圧と解体にこそ目的があるという講演がおこなわれた。

日本安保のもとで進む戦争準備に対する全国の反基地闘争に、階級的労働運動の側が積極的に取り組んでいかねばならないこと。さらに、階級闘争を弾圧し解体しようとする反動諸立法に対する闘争を、労働者階級の大衆的なたたかいへとおしあげ



なければならないこと。このような現在要請されている任務にこたえるものとして、今回の集会は大きな意義をもつものであった。

八八春闘は「連合」の文字どおりの反労働者性と、ますます中小未組織労働者がおきぎりにされるという現実を明らかにした。

四月二二日、満開の桜が雨に打たれるなか、「洛南労組連八八春闘集会」が京都市伏見区にある柳本製作所構内で、四〇〇名を集めておこなわれた。

司会の開会宣言ののち、洛南労組連の小城修一代表が主催者あいさつをおこなつた。小城氏は「『連合』はいま、春闘ということは自体を消し去ろうとしているが、私たちは春闘を考え直す必要がある。春闘を取り一辺倒から、反合理化反失業反労災を掲げた労働者のたたかいとして復権させねばならない。反戦平和闘争との結合も重要だ」と述べた。

集会はこの後、労組連加盟単組の決意表明、全日建連労組関西生支部の連帯アピール、「八八春闘を地域の中・小・零細・未組織労働者の力を集めた新たな地域労働運動としてたたかっていこう」という集会宣言とつづき、最後に團結カンパニーをもつて終了した。

設定したことの意義は大きい。

さうに十月会議が、このような集会をみずから主体的努力によって準備し始めたことを、いま一つの積極的意義としてあげておかねばならない。十月会議はこの集会を本年二月結成後の最初の大闘争として位置づけ、みずからの大衆的位置を鮮明にするものとして全力で取り組んだ。そして首都圏の労組を中心にして、一〇〇〇名の動員を実現した。これは十月会議を強化していくうえで要請されていた東京における労組共同行動の前進にとって、確実な第一歩となるものである。